

環境・信頼  
挑戦

## 2017年 E.V. エコランレース開催



### 22年目となる電気自動車の普及・実用化への挑戦

#### Challenge of Popularization of EV

日本での初めてのソーラーカーレースは、エネルギー消費増と環境保全との相反するテーマに関心が持たれ、電気自動車などのクリーンエネルギー自動車の開発、実用化がより強く求められる中、1992年に電気事業者連合会とエネルギー庁の強力なバックアップにより石川県・能登で実現しました。

そして、20年が経過し、猛威を振るってしまった東日本大震災の後、自然の力が主役となり、必要以上の電気エネルギーをつくり出す責任の重さと貴重な電気を使用する尊さを改めて感じさせられます。

世界で初めての電気自動車の省エネレース(2時間の走行)から21年間の経ち、秋田県大潟村の大会(約100wh)でのトップチームの記録(63.798km)は約1.5倍に、一般道に近似した宮城県菅生サーキット(約250wh)の記録(42.6km)は、約2倍に記録が更新されています。同じ電気エネルギー、同じ走行時間での記録は、そのまま省エネ機器(電気自動車)の開発をしたことになりませんが、走行距離が増えた分だけスピードが増し、その部分だけ安全対策が必要になっており、安全装備について各対策を推進しています。

- ・駆動用バッテリーの固定の確実性確認
  - ・車体から腕や手がでない構造とすること。
  - ・危険と思われる露出物について配慮する。(いかなる部分も車内の空間に突出させてはならない。)
  - ・制動灯(赤色)は後部中央1灯もしくは左右に2灯
  - ・ブレーキテストの実施(30km/h以上で13m以内停止)
- また、ものづくりの観点から、モーターの自作部門クラスの設定や特別賞など推進、検討しています。

一般的にも、「温暖化対策と経済成長の両立には省エネが極めて重要な役割を占める。」と指摘され、近隣のアジア諸国の人たちに「いつまでも汚染された空気を吸わせながら、自転車で通勤をさせられない。我々とおなじような快適な例えば省エネ電気自動車を開発し、そうしたアイデアや技術を伝えてあげたい。」、こうした思いで各地のエントラントとオフィシャル側が一緒になって、健全なる電気自動車の普及・促進を目指し、挑戦を繰り返しているのが電気自動車の省エネレース(エコノ・ムーブ)です。  
益々、電気自動車の普及・実用化へ向ける挑戦者としての活躍が期待されています。

(左下:初回(1995年)大潟村及び菅生の大会のトップチーム、右下:日本自動車大学校での大会のスタートの状況)



大潟村大会でのスタートの状況

大会名称	2017年の開催日	搭載電池
①ワールド・エコ・ムーブ (秋田県)	5月5日~6日	FTX4L-BS×4個
②2017 W. E. V. C. in SUGO (宮城県)	8月26日~27日	FPX1288×4個
③W.E.M.C. in NATS 2017 (千葉県)	11月(10日)~11日	FTX4L-BS×2個
④Energy Challenge Okinawa 2017 (沖縄県)	12月29日~30日(予定)	FTX4L-BS×4個
⑤※東京都市大エコ12017 (東京都)	2017/8/26(予定)	FTX4L-BS×2個

